

「生きてて良かった！」

そう言いたくなるエッセイ集です

雨宮 処凜 [著]

1975年、北海道生まれ。作家・活動家。

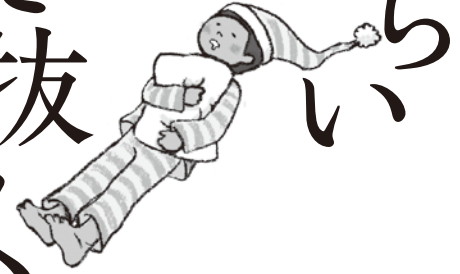
2000年、自伝的エッセイ『生き地獄天国』でデビュー。以来、「生きづらさ」についての著作を発表する一方、イラクや北朝鮮への渡航を重ねる。2006年からは貧困、格差問題に取り組み、取材、執筆、運動中。メディアなどでも積極的に発言。3・11以降は脱原発運動にも取り組む。

2007年に出版した『生きさせろ！難民化する若者たち』はJCJ賞(日本ジャーナリスト会議賞)を受賞。著書多数。「反貧困ネットワーク」世話人、『週刊金曜日』編集委員、フリーター全般労働組合組合員、「こわれ者の祭典」名誉会長、「公正な税制を求める市民連絡会」共同代表。

雨宮
Amamiya
Karin
処凜

作法

生きづらい世を生き抜く



あなたの違和感や
やるせなさに「交まく」言葉、
きっとあります。

『THE BIG ISSUE』の大人気連載
「世界の当事者になる」を一冊に！

あけび書房 定価 本体1500円+税



四六判、216ページ 本体1500円

- もくじ (抜粋) 全98話
- 奪われた当事者性を奪還せよ!
 - 「働く」という当事者性
 - 猫に学ぶ
 - 餓死事件に対して
 - 世界の当事者になる方法を教えてくれた人
 - 結婚と仕事
 - 子猫救出大作戦! (前編)
 - 子猫救出大作戦! (後編)
 - 「人に迷惑をかけるな」という呪縛
 - 「殺される側」からの叫び
 - 「優しさ」と「怒り」について
 - 「死刑でいいです」
 - キャバクラユニオンの歌舞伎町デモ
 - 歳を重ねるとのこと
 - 犠牲の累進性
 - 大学生による「就活」デモ
 - 「もっと怒れ」と言う前に
 - 真の意味での自立

本書
「あけび書房」より

さて、これからは私は、自分への期待値を限界まで下げ、段差のない場所で転ぶような躓つまずきを繰り返し、くだらないことにうじうじと悩み、時々デモして酒を飲み、猫を愛めでながら、そして猫を真まね似て何よりも「昼寝」を大切に生きていく所存だ。あなたも適当にいろんなことをサボりつつ、面白可笑しく日々を過ごしてほしいと思う。そんな余裕が、この世界を少しずつ、優しくしていくと思うから。

あけび書房

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-9-5 TEL.03-3234-2571 FAX.03-3234-2609 E-mail: akebi@s.email.ne.jp

キリトリ線

ご記入のうえ、最寄りの書店が取扱先、あるいはあけび書房が著者へご注文下さい。

注文書

書店印・取扱先

『生きづらい世を生き抜く作法』を()冊注文します

その他・備考

氏名・団体名

ご担当者
氏名

送り先 〒()-() 電話()

発行
TF
EALX
0333334422567019
あけび書房